

# 第1回データサイエンス支援サービスシンポジウム

## ■目的：

昨今、ビッグデータや機械学習に代表されるデータサイエンスの研究に注目が集まっています。これらが対象とする分野は、天文、流体、気象、化学、物理など行った分野から、医療、経済、自動車、人の行動などといった社会情報基盤などの分野まで幅広く及んでいます。

データサイエンス分野で取り扱う蓄積データ量は数ペタバイト規模となり増大してきており、これらのデータから価値ある情報を取り出すには、コンピューティングの分野、あるいは、大規模の情報を短時間で移動させるネットワーキングの分野との連携も欠かせません。

本シンポジウムでは、データサイエンスに関する最先端研究の動向と、データサイエンスに関連する研究を支援するサービスについて、世界トップクラスの研究者をお招きし、コンピューティングを含むデータサイエンスに関する講演をいただくと共に、名古屋大学基盤センターにおいて将来提供可能な新サービスの技術要求について理解を深める機会としたいと思います。

## ■開催日時：

平成28年12月7日（水）13:00～16:30（予定）

## ■場所：

名古屋大学情報基盤センター4階 演習室

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/center/about/map.html>

## ■主催：

名古屋大学情報基盤センター

## ■共催：

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点（JHPCN）

## ■対象：

どなたでも参加できます。

## ■申込方法：

事前登録等は不要ですので、当日会場までお越しください。

■プログラム：

・ 13:30-13:45

「センター長あいさつ」

森健策（名古屋大学情報基盤センター センター長）

・ 13:45-14:00

「名古屋大学情報基盤センターにおける

データサイエンス支援サービス（試行）のご紹介」

片桐孝洋（名古屋大学情報基盤センター 教授）

・ 14:00-14:30 (30 分講演)

「新たな人間行動の研究パラダイムにむけた大規模計算への期待」

武田一哉（名古屋大学未来社会創造機構 社会モビリティ領域

機械・情報分野 教授）

・ 14:30-14:45 休憩

・ 14:45-15:15 (30 分講演)

「高速通信技術を活用した名古屋大学情報基盤センターの

大規模可視化技術」

村田健史

（情報通信研究機構総合テストベッド研究開発推進センター研究統括）

・ 15:15-15:45 (30 分講演)

「データサイエンスを支えるデータ処理基盤と可視化サービス」

小野謙二（九州大学情報基盤研究開発センター 教授）

・ 15:45-16:15 (30 分講演)

可視化に関するプロジェクト関連者（打診中）

・ 16:15-16:30

「おわりに」

片桐孝洋（名古屋大学情報基盤センター 教授）

・ 17:30 懇親会（予定）